〈平和特別号〉
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
第1回「ジャパン SDGsアワード」受賞
発行日：2025年7月21日
発行：パルシステム東京 組織政策推進本部

Eco & Peace Navigator

エコ&ピースナビゲーター

2025年 7月号 Vol.48

食材のお届けだけじゃない!
パルシステム東京の
社会活動をご紹介。

戦後80年 特別寄稿

**“被爆者の声が世界を動かした”をテーマに、ノーベル平和賞を受賞した箕牧氏ご本人に寄稿いただきました。
戦争・被ばくの体験者として後世に伝えられるよう「エコ＆ピースナビゲーター Vol.48号」に掲載します。
どうか様々な世代の方がこの事実を知り、伝えてください。**

箕牧智之氏プロフィール

1945年３月に東京大空襲に遭い、同年５月に父の故郷である広島に疎開。鋳物工場などで働き、57歳から14年間町議などを務めた。被爆者としての活動は2005年から積極的に始めた。2021年に広島県被団協理事長、2022年に日本被団協代表委員に就任。

箕牧 智之（みまきとしゆき）氏
（広島県原爆被害者団体協議会）

戦争と原爆

太平洋戦争を紐解いてみると、1941年12月８日、旧日本軍はどんな思いで真珠湾奇襲攻撃を実行したのだろうか。1945年８月15日、終戦の日まで続いた戦争は多くの国民の命、財産を失うことになった。また、中国、朝鮮半島にも日本は加害した。1945年だけでも３月10日東京大空襲、６月沖縄での地上戦、そして広島・長崎への原爆投下、今思えば旧日本軍の罪は無限大と言いたいです。日本国内で反対運動は起きなかったのか。自由が全く束縛された世の中だったのでしょう。戦争になりますと「欲しがりません、勝つまでは」そんな言葉があったと母は私に話してくれたことがあります。東京板橋に住んでいた私たちの家族は東京大空襲後父の出身地広島に疎開した。父は東京では化学工場で働いていたので兵役を逃れた。広島市内から17キロ離れた田舎での生活、最寄りの駅から列車通勤の生活が始まりました。国鉄広島機関区で働き、夕方になると決まった列車で帰ってくるので３歳の私が最寄の駅まで迎えに行くのが至福の日課でした。そして８月６日の午後我が家の前を大勢の人が歩いておられ、髪はボサボサ、着ているものはぼろぼろ、履物は履いたりなかったり、水が欲しいとか。一人の女性が我が家に寄られて母にこの缶詰を開けてくださいと頼み込みました。母が缶切りで開けておわんに移して差し上げたらそれを食べながら山奥へ歩いて行かれた。夕方いつもの時間に父を駅まで迎えに行った。最後まで待ったが父は帰りませんでした。私は泣きべそをかきながら帰ろうとしたら空から紙の焼けたようなものが降ってきたのを見ました。そして家に帰り「父さんはいなかった」と母に伝えました。夕暮れ時近所の人が「広島は大ごとになっている、明日トラックが出るから広島に行きたいものは乗っていきなさい」とのこと母は弟をおぶって私の手を引いて市内に入り機関区の近くを探したが見つからなかった。

この他にも寄稿を頂いています。
こちらから全文をご覧いただけます。▶

2025年６月２日
広島の被爆者
箕牧 智之

パルシステム東京の平和スタディツアー

ピースアクションinヒロシマ・ナガサキスタディツアー

パルシステム東京では毎年「パルシステム東京平和政策」に基づき、毎年ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ平和スタディツアーを実施しています。原爆投下日に合わせて現地を組合員とともに訪れ「平和」について考える機会を設けています。

戦後80年の節目となる今年、皆さんは何を思いますか？遠い国の話だと思っていた戦争が80年前にここ日本で起こっていたのです。広島県と長崎県に落とされた原爆、そしてあの日のことを決して忘れてはなりません。戦争の事を体験者から直接聞ける機会が減ってきている今、一度は自ら現地へ足を運び、見て、聴いて、そして後世に残す行動が大切なのではないでしょうか。

2024ピースアクション
inヒロシマ

広島平和記念碑（原爆ドーム）

2024ピースアクション
inナガサキ

長崎市民の平和への願いを象徴する
平和祈念像

エコ&ピース ナビゲーター
2025年 7月号 Vol.48

〈平和特別号〉

戦後80年を迎え、私たちは反戦の気持ちを新たにします。2023年度総務省の人口推計※によると、戦後生まれの人の割合は87.9%で、9割近くが戦争を知らない世代となっています。具体的には、人口の1億932万人（87.9%）が戦後生まれです。次世代へ戦争の記憶を伝える大切さ、そしてその意義を改めて確認する時期に差しかかっているのかも知れません。
私たち一人ひとりが、身近な場所を実際に訪れて、見て、聴いて、体感して、戦争について考える時間をつくってもいいのではないでしょうか。

※2023年度
人口統計調査

身近な施設をご紹介

～子どものしあわせと平和を願い続けた絵本画家～

ちひろ美術館・東京

娘時代を戦時下に過ごしたいわさきちひろは、子どもたちの夢や希望、生命をも奪う、戦争の悲惨な現実を目の当たりにします。そして、戦争では、一番弱いものが犠牲になると痛感しました。戦後、絵本画家として自立し、一人の子どもの母親となります。あどけないあかちゃん、生命力に満ちた子ども、そして戦禍のなかで生きることを余儀なくされた子ども。未来の、そして平和の象徴として描いた子どもたちひとりひとりに、「世界中のこどもみんなに平和としあわせを」という願いが込められています。

[住　　所] 東京都練馬区下石神井４－７－２
[入 場 料] 大人1,200円、18歳以下、高校生以下無料
[開館日時] 火～日（例外あり）10：00～17：00
[アクセス] 西武新宿線上井草駅下車徒歩７分、JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き（荻14）「上井草駅入口」下車徒歩５分、西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き（荻14）「上井草駅入口」下車徒歩５分

ちひろ美術館・東京

～秘められた戦争の裏側～

明治大学平和教育登戸研究所資料館

「明治大学平和教育登戸研究所資料館」は戦前に旧日本陸軍によって開設された登戸研究所の活動を展示している資料館です。同研究所では、正式名称は「第九陸軍技術研究所」ですが、その機密性から「登戸研究所」という秘匿名で呼ばれていました。この施設では秘密戦兵器・器材の研究・開発が行われ、アジア太平洋戦争において秘密戦の中核を担う重要な役割を果たしていました。軍から高い重要性を与えられていたこの研究所は、終戦とともに閉鎖されました。1950年代に登戸研究所跡地の一部を明治大学が購入し、現在の明治大学生田キャンパスが開設されました。

[住　　所] 神奈川県川崎市多摩区東三田１丁目１－１
[入 場 料] 無料
[開館日時] 水～土 10：00～16：00（例外あり）
[アクセス] 小田急線「生田駅」南口から徒歩約10分、「向ヶ丘遊園駅」北口から小田急バス「明大正門前」行きに乗車、終点で下車

明治大学平和教育登戸研究所資料館

～戦後強制抑留者および海外からの引揚者の労苦～

帰還者たちの記憶ミュージアム 平和祈念展示資料館

「平和祈念展示資料館」は戦争が終わってからも労苦（苦しくつらい）体験をされた、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の三つの労苦を扱う施設です。兵士は、戦争で国のために家族を残し、危険な戦地に向かい、命をかけて激務に従事し、大変な労苦を体験された人たちです。中には、軍歴期間が短いために年金や恩給を受給できない人たち（恩給欠格者）もいます。戦後強制抑留者は、戦争が終結したにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境の中で過酷な強制労働に従事させられた人たちです。海外からの引揚者は、敗戦によって外地での生活のよりどころを失い、身に危険が迫る過酷な状況の中をくぐり抜けて祖国に戻ってこられた人たちです。

[住　　所] 新宿区西新宿２丁目６－１ 新宿住友ビル33階
[入 場 料] 無料
[開館日時] ホームページにてご確認ください。毎月第３日曜日に「語り部お話し会」を実施
[アクセス] 大江戸線「都庁前」駅A6出口より徒歩約１分、丸ノ内線「西新宿」駅より徒歩約５分、JR線、小田急線、京王線「新宿」駅西口より徒歩約10分
[そ の 他] 解説員による展示解説を実施しています。ご希望の場合は、事前にお申込みいただくか、受付にお知らせください。
※要望に応えられない場合がありますので、ご了承ください。

平和祈念展示資料館